

令和3年度 第3回千歳市都市計画審議会 会議概要

日 時：令和3年12月21日（火）

場 所：議会棟大会議室

出席者：（委員出席者）山林委員（会長）、長島委員（副会長）、有村委員、藤川委員、坂野委員、仲山委員、谷内委員、青木委員、西澤委員、北原委員、三崎委員、青柳委員
（委員欠席者）北山委員、野田委員、藤澤委員、野崎委員
（事務局）企画部長、企画部次長、まちづくり推進課長ほか3名
（傍聴者）0名

【会議結果】

1 協議事項

（1）千歳市第3期都市計画マスタープラン（素案）について

（2）千歳市立地適正化計画（素案）について

上記の協議事項について、協議済みとなった。

2 その他

【会議における意見及び質疑に対する回答】

1 協議事項

（1）千歳市第3期都市計画マスタープラン（素案）について

【委 員】

P46 に廃棄物処理施設の方針が記載されているが、現在、千歳市においてプラスチックごみは適切に処理されているのか。

【事務局】

千歳市では、プラスチック製容器包装など8種類に区分し、廃棄物の再資源化に取り組んでおり、適正に処理を行っています。

【委 員】

前期都市計画マスタープランに比べ、地域区分が細分化されており、わかりやすいと感じた。

2 協議事項

(2) 千歳市立地適正化計画（素案）について

【委 員】

P32 において、「現在の都市の状況イメージ」から「目指すべき都市の骨格構造イメージ」への変化の内容として、コンパクト・プラス・ネットワークの考え方や将来的な人口減少の結果を踏まえると、図では全体的に人口増加となるようなイメージに見えて違和感がある。

【事務局】

表現について検討させていただきます。

【委 員】

郊外など居住誘導区域外の住民に対する公共交通の充実が重要になると思われるので、地域公共交通計画などと連携し、施策を検討していただきたい。

【事務局】

持続可能で誰もが利用しやすい公共交通の確保のため、都市計画マスタープラン、立地適正化計画及び地域公共交通計画と連携し、施策を展開していきたいと考えております。

【委 員】

P23 において、J R 千歳駅や市立千歳市民病院を交通結節点とするとなっているが、市役所周辺にも直接来られるようになると便利で良いと思う。

【事務局】

今後の参考とさせていただきます。

【委 員】

長都駅周辺における鉄道高架については、検討したのか。

【事務局】

第1期都市計画マスタープランでは、将来人口を12万人と想定し、長都駅周辺における鉄道高架について検討していましたが、第3期都市計画マスタープランでは、人口のピークが約10万人となっていることや将来的には人口減少が推計されていること、鉄道以北と以南の土地利用の違いなどを踏まえると、鉄道高架については、現実的ではないと考えられることなどから、計画には記載しておりません。

【委 員】

鉄道高架について、J R に要望をしているのでは。

【事務局】

市からは、J R に対し、J R 長都駅の改修や千歳駅舎の耐震化等について要望しておりますが、現在、鉄道高架について要望はしておりません。

【委 員】

P51 において、市独自区域を設定しているが、あえて設定する理由はなにか。

【事務局】

居住誘導区域外において、市民や企業、大学、来訪者による様々な活動・交流を促すことを目的に設定しております。

【委 員】

P82 において、「中心市街地の歩行者通行量」を指標として設定しているが、測定が大変であるので、指標から外してもよいのでは。

指標とする場合、通行量の測定方法について、例えば、スマートフォンの位置情報などのビックデータを活用することを考えたほうが良いと考える。

【事務局】

「中心市街地の歩行者通行量」を指標としているのは、総合計画と整合を図っているものであります。

今後の参考にさせていただきます。

【委 員】

P75 に防災・減災まちづくりに向けた課題図があり、大規模盛土造成地が記載されているが、災害リスクは高いのか。液状化の可能性はあるのか。

【事務局】

大規模盛土造成地は、第二次スクリーニング計画まで終了しており、災害リスクは低く、地盤調査は不要との結果になっています。

液状化の判定については、ボーリング調査等が必要になりますが、第二次スクリーニング計画における文献調査や現地踏査の結果において、可能性は低いものと考えられます。

以上